



蓮池の夢通信

第4号

平成22年4月15日

宇都宮城跡蓮池再生検討委員会

<http://park.geocities.jp/hasuikesaisei>

**** 夢はますます ****

会長 石川 速夫

蓮は咲きましたか、と思いがけない方からお声をかけて頂くことがしばしばの昨今である。陰ながら関心を持って下さる方々が沢山いらっしゃるのありがたいことである。上蓮池の痕跡すらとどめない現在の市街地で、蓮の実を発掘しようというのは一見無謀とも思われた。発掘可能な場所の選択、地権者の諒解協力、試掘での資材提供、試料の科学的分析、本格発掘での技術指導や機材の提供、さらには泥まみれになっての種子の選別など数え切れない多くの方々の御理解と御協力があって得られた結果である。科学的な年代測定の結果では、200年から400年前に及ぶ試料が得られたことになる。

また、昨年発掘した蓮の実についても今年年代測定を実施することで更に蓮池の関係が明らかになる。

どうやら、蓮池の堀は、江戸時代本多正純の城地整備以前から存在した、原宇都宮城につながる遺構のようである。これから夢はもっとふくらむ。



写真-1 平成22年版「蓮ごよみ」を発行



写真-2 発掘された灯明皿は16世紀代と思われる



写真-3 発掘された和釘は年代不明



写真-4 コメリ緑資金の会から助成金を受ける石川会長

栃木花蓮写真展審査員の方々からのメッセージ

・塚本 こなみ（あしかがフラワーパーク園長）さん

日本の仏像のその多くが蓮台の上に立ち、慈愛に満ちたまなざしで私たちを見つめています。花ハスを観ていると、お釈迦様の愛に包まれるかのように、豊かな優しい気持ちになり、心が洗われるかのようです。

以前園内にも咲いていたころは、私もご来園のお客様とその美しさを分かち合い、心が癒されました。

花の咲くころ、蓮池周りをゆったり歩くと、その4日間の花ハスの命を見ながら、人の人生に置き換えてみたり、地中の蓮根の生命力の強さに感動したり、またその実の美味しさを味わったりと自然の恵みに感謝です。写真の審査をさせていただくと皆様の写真から、そんな強さ、優しさ、凜とする姿までも伝わり、とても幸せな気持ちになります。

・島田 恭子（益子町在住陶芸家）さん

蓮の花を初めて間近に見たのは、近所の塚田さんというお家の庭でした。あまりに大きな花とその美しさに、ただただしばらく見とれていました。ご主人に「古代蓮」と伺って、そのロマンにひかれ私も育ててみたくなり一株分けて頂き、それが私と蓮との出会いでした。蓮の花の魅力は、凜とした花の美しさ、光を通した輝く花びら、虫達を誘い包むような優しさ、緑葉の悠々たる大きさ、霜の降りた冬枯れの葉・・・

など等、これほど魅力的な花はないかもしれません。多くのカメラマンがその魅力を「自分だったら・・・」と挑戦する気持ちが本当に良く分かります。そんな力作ばかりを集めた写真展の審査はなんと愉しく幸せの時間を頂いていることと感謝しております。この写真展をきっかけに蓮ファンが増え、あちこちで蓮交流が出来、また蓮の名所が随所に増えていくことを楽しみにしています。

・塚田 宗雄（元宇都宮市教育委員長・当会副会長）さん

あの美しい蓮の花に惹かれて集めはじめ、自宅の庭に約30鉢、20種類になろうかと思われます。6月末には、さまざまな種類の花が咲きます。春のお彼岸が過ぎる頃、泥だらけになり汗いっぱい流しながら2日間かけて植え替えをします。6月に入ると小さな花芽が現れ毎日少しずつ上に上にと上がってきます。その成長が楽しみで毎日眺めに行きます。蕾がふくらんでくるといつ開くか待ち遠しい日が続きます。そんな世話をして10数年が経ちます。8年前印南洋造氏より県内の花蓮写真展を開こうとお誘いをうけ、審査委員になるようにとの事。審査委員の先生方も色々な分野の専門の方達で観る眼もさまざまです。私にとっても学ぶ事が多く感謝にたえません。この写真展にもっと多くの人達に出品していただき、蓮の花の美しさを楽しんでもらえることを期待しております。

・大手 義雄（栃木県写真家協会理事）さん

『蓮の花に映える宇都宮城』こんな素晴らしい情景がよみがえったら・・・今から心がわくわくしますね。

画面手前に蓮花を入れてバックに宇都宮城を・・・こんな写真を早く撮ってみたいと思います。

そして写真愛好家の皆さんと撮影会を、写真コンテストを、きっと素晴らしい作品が沢山集まるでしょうね・・・そんな日がくるのを、今から心待ちにしています。

・枝村 敏夫（下野新聞社写真部長）さん

第7回栃木花蓮写真展の審査会に初めて参加させて頂きました。率直な感想は、撮影技術を駆使し、蓮の花の素晴らしさを引き出している一、に尽きます。職業柄、写真関係の審査員は何度となく務めてきましたが、花、それも蓮に特化した写真の審査は初めてでした。今回の出品数は101。花を愛し、撮影ポイントに何度も足を運んだ作品だけに労作が多く、上位作品の優劣をつけるのに悩みました。

新聞の「絵解き」は基本的に人物を入れての写真になります。報道写真と違い、今回の作品は夜間やシーズンを過ぎた蓮を狙うなど通年的、詩的な作品も見られました。静謐の世界が醸し出され、そしてファインダーを覗く、皆さんの熱気が伝わってきました。

「蓮ごよみ」の作成に協力いただいた方からのメッセージ

・成島 行雄（蕪村研究家）さん

あれはいつのことだったか。たしか蕪村の句碑が宇都宮市仲町の生福寺境内に建立され、その除幕式が執り行われた時であったような気がする。とうことは平成19年春のことだが、式のお手伝いに来られていた宇都宮城跡蓮池再生検討委員会事務局の印南さんから「今年は私共の会で蓮の花をテーマにしたカレンダーを作るのでそこに蕪村の句をあしらいたい。ついてはご協力をお願いしたい」という話が出、急遽蕪村の蓮の句を探したりした。ところが2、800句もある蕪村に、蓮を詠んだ句が僅か、「蓮の香や」など10句しか見出せなかったのであった。止むを得ず蕪村が宇都宮で詠んだ句、それが宇都宮二荒山神社と生福寺に建立した句碑なのであるが、それらを取り混ぜて暦に掲載して戴いたのである。しかしそれも書家斎藤洋子氏の流麗な筆によって、暦に彩を添える事が出来たのは幸いであった。

・斎藤 洋子（書家）さん

美しく魅力的な蓮の写真展に係わり、いつの間にか魅せられて、自分もシャッターを切るようになっていた。昨年鎌倉を旅し、寺院を背に気品ある凛とした蓮の良く似合う光景に出会い、ドキリとしてシャッターを切った。思わず最優秀賞だとつぶやいてしまった。寺と蓮に深い縁があることは、何となく知っていたが、阿弥陀仏が極楽浄土から蓮の花を持って来迎すると言われていたことから、仏と蓮は寺の華だったのだと初めて知った。「蓮ごよみ」に蕪村の書句を書かせていただき、書が写真を引き立て多くの方々に見ていただければと読みやすく、上を揃えてふっくらと心がけ、蓮を愛する皆様方に親しまれる「蓮ごよみ」の一助を担える機会をいただき光栄です。

3号以後の経過と今後の予定主に平成22年

- ・ 11月 3日：3作目となる平成22年版「蓮ごよみ」を発行。〔写真-1〕
- ・ 1月 5日：H21 発掘した遺物（灯明皿と和釘）が栃木県教育委員会へ帰属となる。〔写真-2～3〕
- ・ 2月 4日：コメリからのH22年度活動助成金贈呈式が新潟市で開催された。〔写真-4〕
- ・ 3月26日：H21 に発掘したNo.14、No.45、No.55、No.62、に発芽処理を施す。〔写真-5〕
- ・ 4月 2日：H20 の試料（No.10、No.12、と1年遅れのNo.11）の蓮根を確認。〔写真-6～8〕
- ・ 4月15日：「蓮池の夢通信4号」の発刊送付。
- ・ 4月30日：発芽処理を施した4個の実〔写真-5〕を年代測定に委託。
- ・ 6月 1日：第8回栃木花蓮写真展開催の募集要項配布案内。
- ・ 7月17日～18日「第6回蓮寺と文化財めぐり」の開催。
- ・ 7月19日：蓮の開花に伴う観蓮会の開催。雨天の場合は20日。
- ・ 9月22日：第8回栃木花蓮写真展応募締め切り。
- ・ 10月 9日：第8回栃木花蓮写真展表彰式 午前11時を予定 於：宇都宮大学学生会館2F 多目的ホール
- ・ 10月 9日～12日第8回栃木花蓮写真展々示10時～18時 於： 同上。
- ・ 10月 9日～11日まで下記公開講座を開講（13：30～15：30） 於： 同上。
- ・ 10月 9日：・「第8回栃木花蓮写真展作品講評」 講師：大手 義雄
- ・ 「蓮池の発掘から栽培まで」 講師：印南 洋造
- ・ 10月10日：・「宇都宮歌壇（新〇和歌集）」 講師：石川 速夫
- ・ 「蓮池の考古学的調査報告」 講師：高橋 史朗
- ・ 10月11日：・「蓮池周辺の自然環境」 講師：松居誠一郎
- ・ 10月27日～31日：第8回栃木花蓮写真展巡廻展 県南会場：岩舟町 県立みかも山公園。
- ・ 11月 3日～10日：同 上 県北会場：那須塩原市 県立那須野が原公園。
- ・ 11月 3日：平成23年版「蓮ごよみ」の作成及び頒布。



写真一5 発芽した4個(H21)の蓮の実



写真一6 2年目の蓮根を形成したNo.10



写真一7 2年目の蓮根を形成したNo.12



写真一8 1年遅れて蓮根を形成したNo.11

入会のご案内

江戸期の宇都宮城下絵図には蓮池門、上蓮池、下蓮池などの記載があり、往時の人々が愛でた蓮の花を、平成の今日、宇都宮の花の文化として蓮池を再生しようと平成18年2月から市民運動を展開しております。

つきましては、この趣旨に賛同される会員を募っています。

会費：個人会員は年会費1口：1千円から、賛助会員は年会費1口：1万円から。

振替口座番号：00160-2-742086 宇都宮城跡蓮池再生検討委員会 お問合せは下記本部・事務局へ

本部 〒320-0023 宇都宮市仲町2-17（塚田方） 電話：028-622-5879 FAX：028-627-0269

事務局 〒321-0901 宇都宮市平出町3630-3（印南方） 電話：028-663-1313 FAX：同左

事務局からのご案内

公開講座：平成22年度宇都宮大学の公開講座として5回シリーズで開講（詳細は前ページ参照）

第6回「蓮寺と文化財めぐり」：7月17日（土）4ヶ寺を予定。

第2回観蓮会：7月18日（日）雨天は19日。一昨年4月に発見した蓮の実2検体が昨年は開花に至りませんでした、1年遅れて新たに1個（No.11）が加わり、順調に3個が成長し7月には開花するものと思われますので、これまでご協力いただきました方々をお招きし、観蓮会を開催します。詳細は上記、本部・事務局へお問い合わせください。

第8回栃木花蓮写真展：6月下旬応募要項を配布。10月9日～12日 於：宇都宮大学大学会館2F多目的ホールで展示し、9日は同会場で表彰式。以後県南会場・県北会場を巡回展示（詳細は前ページ参照）。

なお、詳細は会のHP「宇都宮城跡蓮池再生検討委員会」を検索または、事務局までお問い合わせ下さい。

蓮ごよみ：今年も「第8回栃木花蓮写真展」の入賞作品から、平成23年のカレンダーを作成し頒布します。ご希望の方は送料共1部千円で予約を受けますので上記本部へ住所・氏名・Tel・部数を記載しFAX願います。